

音楽科 5年C組	曲想を生かして演奏しよう ～2つの「キリマンジャロ」～	内垣 美佳
---------------------------	--	--------------

1. 題材について

本題材では、曲想を感じ取り、曲想にふさわしい表現の工夫を考えて合奏することをねらいとする。合奏する曲は、「キリマンジャロ」（ウォルフ シュタイン・ウォルフガング ヤス作曲）である。A+A´+Bに序奏と間奏が付いた自由な形式でできている。今回は、音の重なり合う響きを感じやすくするために、鍵盤ハーモニカは使用せず、リコーダーを中心とした合奏をする。リコーダー・木琴・鉄琴の演奏に、打楽器でリズム伴奏を加える。曲全体の曲想、またはAとBの部分の曲想の違いを感じ取って、この曲にふさわしい打楽器の組み合わせを考える。

合奏の楽しさは、思いや意図を伝え合いながら、協働して音楽表現を生み出す達成感や喜びを仲間と共に味わえるところにある。誰もがその楽しさを味わうことができるように一人一人の気付き、考え、演奏の技能などを丁寧にみとりながら学習を進めていきたい。第一次では、「キリマンジャロ」と同じく自然をテーマにした曲である「～ミシシッピー組曲～『ハックルベリーフィン』」（グローフェ作曲）を鑑賞する。情景をイメージして鑑賞することの面白さ、強弱や音の重なり、速度が曲想と結びついていることを理解して第二次の学習につなげる。アフリカ大陸最高峰であるキリマンジャロのイメージを広げ、「こんなふうに表現したい」という子どもの思いを膨らませる。表現の工夫をしながら合奏することを楽しむ子どもの姿をめざす。

2. 題材設定の理由

(1) 本実践の主張点

「キリマンジャロ」の曲想に合うリズム伴奏を考えることで、表現を工夫して演奏する楽しさを味わい、曲全体の音の響き方にも気を付けて演奏できるようになるであろう。

キリマンジャロの風景をDVDで鑑賞しながら曲のイメージを広げ、この曲の曲想にどうつながっているのかを感じ取らせながら合奏していく。まずは、上記の通り、イ短調による旋律や、スタッカートやシンコペーション、また、8分休符によるリズムで生み出される生き生きとした曲想をリコーダー・木琴・鉄琴で演奏する。1学期に子ども達は打楽器によるリズムアンサンブルづくりをしてきている。そのため、1学期の音楽づくりで学んだことを生かしながら、「キリマンジャロ」の曲調にふさわしいリズム伴奏を工夫させたい。その際には、打楽器同士の音色の重ね方だけでなく、旋律を演奏する楽器の響きに合うような打楽器の音色の重ね方や他の楽器との音のバランスにも気付かせたい。また、2つのグループに分かれて演奏し、工夫した表現を仲間と聴き合いながら、互いの演奏の良さを認め合っていけるようにしたい。

(2) 教科提案とのかかわり

音楽科では、「つなぐ」をキーワードに、表現及び鑑賞活動を通して、「思いや意図をもって表現できる子ども」をめざしている。本年度は「自己とつなぐ」に重点を置く。

本題材では、既習を生かしたり、新たに必要な技能を身に付けたりしながら合奏する子どもの姿をめざして、授業の終わりに行う振り返りを充実させる。子ども自らタブレットで録画・録音し、聴く活動も取り入れながら、自分が譜面の中のどこまで演奏できるのか、もっとできるようになりたいことは何なのかを自己認識させる。自分のもっている力や付けたい力を言葉で表現させるによって、自分なりの目標を立てながら意欲的に学び続けていくことができる。

また、今回は、ゲストティーチャーに来てもらい、リコーダーや打楽器の奏法について教えてもらえる機会をつくりたい。多様な奏法によっていろいろな音色で奏でられることを知ることで、思いや意図にふさわしい表現をする際の参考にしていきたいと考えている。

3. 題材の目標

- 曲想とその変化を感じ取り、音楽の構造との関わりについて理解して聴いたり、既習を生かし、新たに必要な技能を身に付けながら、曲想に合う演奏の仕方でも音楽表現したりする。
- 曲や演奏のよさを見いだして想像豊かに聴いたり、振り返りをしながら思考判断し、曲想にふさわしい表現を工夫したりする。
- 互いの楽器の音、リズムや旋律の重なりを聴き合いながら協働して合奏する。

【学習指導要領との関連（新）】A表現（1）器楽ア、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ）（ウ）B鑑賞ア、イ

4. 題材の評価規準

ア、知識及び技能	イ、思考力・判断力・表現力等	ウ、学びに向かう力、人間性等
①楽器の音色、各声部の楽器の重なり方、強弱などによって変化する曲想やその変化を感じ取り、音楽の構造との関わりについて理解して聴いている。	①曲がもつよさやオーケストラの響き、演奏者などによる演奏のよさに気付き、想像したことや感じ取ったことなどを言葉で表すなどして、曲全体を味わって聴いている。	①楽器の音色、各声部の楽器の重なり方、強弱のかかり合い、変化によってつくられる楽曲の構造を理解し、曲全体を味わって聴く学習に主体的に取り組もうとしている。
②楽器の音色や旋律の特徴に気を付けながら、曲想に合う演奏の仕方でも演奏している。	②互いの楽器の音、リズムや旋律の重なり、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	②互いの楽器の音、リズムや旋律の重なりを聴き合いながら、曲の特徴にふさわしい表現の工夫をし、協働的に合奏する学習に主体的に取り組もうとしている。
③各声部の楽器の音や全体の響きを聴きながら、音を合わせて演奏している。		

【共通事項】ア（ア）音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、拍、フレーズ（イ）呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横の関係

5. 題材計画 全8時間（本時6／8）

次	時	題材の指導計画	評価規準
第一次	1	「～ミシシッピ組曲～『ハックルベリーフィン』」 情景を想像し、曲想の移り変わりを感じ取りながら聴く	アー①、イー①、ウー①
第二次 (7時間)	2	「キリマンジャロ」 ・情景を想像して曲のイメージを広げる。	アー② ウー②
	3	・旋律の特徴を生かして主な旋律を全員で演奏する	
	4	・楽器の分担を決めて、パート練習をする	アー②
	5	↓ パート練習⇔合奏する	アー③
	6	・曲想に合う打楽器の組み合わせを考え、工夫して演奏する <本時>	アー②、イー②
	7	↓	アー③、イー②
8	・原曲やグループの合奏を聴き合い、それぞれの演奏の良さを味わう	アー③、ウー②	

6. 本時について

本時では、3～4人グループになって、「キリマンジャロ」のリズム伴奏をどの打楽器の組み合わせにするか考えて、意見を出し合う。それぞれの思いや意図によって、打楽器の組み合わせ方の案がいろいろと出されるであろう。出された案は、実際に演奏してみて旋律楽器と合わさるとどのような音の響きになるのかを確かめたい。本時における学びの深まりとは、「打楽器を加えることで、曲想にどのような味わいが増し、自分たちはどのような演奏にしたいのかという思いや意図を考えだしたところ」だと考えている。